

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0470500372
法人名	有限会社 村伝
事業所名	グループホーム 村伝
所在地 (電話番号)	気仙沼市八日町二丁目3番5号 (電 話) 0226-21-1344
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年 8月23日

【情報提供票より】(19年 8月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 9 月 15 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 9 人, 非常勤 人, 常勤換算 5.6 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / ○ 単 独	新 築 / 改 築
建物構造	木 造 造 り	
	2 階 建 て の 階 ~	1 階 部 分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有 (円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	270 円
	夕食	450 円	おやつ	50 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8月 4日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	名	要介護4	名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 79.4 歳	最低	71 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	木島医院 ・ 大里胃腸科内科医院 ・ 櫻田歯科医院
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

近くには公園、商店街、市役所、病院と恵まれた環境にあり、外出も自由で職員による支援はもちろんのこと、近所の方々の理解も得て、買い物や散歩に出かける入居者も多い。また家族の方や地域の方の面会も多く1日平均2名を越える月もある。地域の一員として、町内会や自治会にも加入しており、夏祭りや芋煮会など地域の行事には積極的に参加している。内部・外部研修の機会も多く、一人で年間3~4回受講している。研修報告は毎月の全体会議で発表してもらい職員の資質の向上に努めている。重要事項説明書のなかに「看取り介護に関する指針」として3ページにわたってその方向性が書かれていて事業所が対応できるケアについて本人や家族に説明している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>「個別具体的な介護計画」の「適切な時期に計画が出来ていない」は、新しいケアプランの作り方に変え現在は入居者本位の介護計画となっている。「介護計画の見直し」の「見直しはしているが、はっきりとした記載がない」は、入居者の状態の変化や状況、家族や本人の要望に応じてその都度または3ヶ月に1回見直しをし記載している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員にそれぞれ自己評価してもらい、出来上がったものをさらに全員で検討し、作成した。「取り組みを期待したい項目」については、出来るものから順に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>活動内容 ①近隣でのイベントに参加した実績 ②行事、他施設との交流 ③ボランティアの受け入れ実績 ④研修の受け入れ実績 ⑤その他の社会資源の利用について ⑥家族や友人等の面会人数 ⑦今後の活動予定について、活動内容について説明し、それに対する評価をいただいている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族には面会で来た時や運営推進会議の場で問いかけ、意見や要望を聞くようにしている。また苦情受付窓口を設けていて説明している。出された意見、要望はミーティングで話し合い、反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、町内会や自治会に加入しており、夏祭りや芋煮会など地域の行事に積極的に参加している。また気仙沼高校の生徒や東北福祉情報専門学校生が、ボランティアとして活動に来てくれる。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を職員全員が理解していて、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性の継続を謳った事業所独自の理念である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティングで理念の唱和をし、確認し合うようにしている。言葉かけ、態度、記録など日々のサービスの提供場面において理念が実践の中に活かされるように取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の一員として、町内会や自治会に加入しており、夏祭りや港祭り、芋煮会など地域の行事に積極的に参加している。また高校生や専門学校生がボランティアとして活動しに来てくれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員全員にそれぞれ自己評価してもらい、全員で検討し作成している。外部評価の結果は、ミーティングで報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームの活動内容を報告し、その活動内容についての評価を受けたり、地域の行事案内をして頂いたりしている。運営推進会議を関係者に公表するなどし、地元住民や関係者とのつながりを広め、事業所の理解者や応援者を増やし、意見や要望をよりサービスの質の向上に活かして頂きたい。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームとしての認知症高齢者についての地域に対する啓発についての努力は「村伝通信」を見てもよく理解できる。市町村の連携等については運営推進会議発足をきっかけとしてなお発展させようとしている。	○	運営推進会議等を通じて市への働きかけについても努力されているので市からのホームへの理解と協力もお願いしたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回発行の「村伝通信」で伝えるほか、面会の際、写真を見てもらい、現在の状況を報告している。また、金銭管理は月1回の支払いの時に出納帳を確認してもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、面会で来た時や運営推進会議の場で問いかけ、意見や要望を聞くようにしている。また苦情受付窓口を設けていて、意見や苦情を表せる場があることを説明している。出された意見や要望はミーティングで話し合い反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はない。退職する職員がある場合は、変わる前に新しい職員の研修をしたり、入居者とのコミュニケーションを取るため影響がない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	気仙沼・本吉地区介護サービス法人連絡協議会の研修、宮城県グループホーム連絡協議会の研修、県の実践者研修など内外で行われる数多くの研修会に参加している。またそれらの研修報告は毎月の全体会議で発表してもらい、研修報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	気仙沼・本吉地区介護サービス法人連絡協議会で交流をもち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問の活動などしているほか介護員同士の懇談会で情報交換をし、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員が自宅に出向いたり、デイサービスのな方法で2～3回位来てもらい職員の顔を覚えてもらうようにして、事業所での生活が安定するのを見極めてから安定的な利用に移行している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、普段から入居者に教えてもらう場面が多い。またそういった場面が多くもてるようにセッティングや工夫や声かけに配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中から暮らし方の希望、意向などの把握に努めている。把握の方法については家族や関係者から聞きとるなどいろいろ努力している。しかし職員はまだ充分であるとはしておらず意欲的なので、尚一層よろしく願いたい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日ごろのかかわりの中で、実際に困っていることや介護への要望など本人の思いや情報などを得ながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の遂行状況・効果など評価すると共に入居者の状態の変化や状況、家族、本人の要望に応じてその都度、または3ヶ月に1回見直しをしている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて通院や外出、外泊など対応している。また突然の家族からの申し出についても柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時には職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書のなかに「看取り介護に関する指針」として3ページにわたってその方向性が書かれていて、重度化や終末期を迎えた場合に事業所が対応できるケアについて、本人や家族に説明している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日々の挨拶、笑顔を大切に、人前であからさまに介護したり、誘導の声かけをして本人を傷つけてしまわないように、目立たずさりげない言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物や散歩など一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一週間のメニューは市役所の栄養士の方からチェックしてもらい、調理、盛り付け、後片付けなども入居者と一緒に行い、職員と入居者が同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るような雰囲気作りも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、基本的には遅出勤務者が担当のため、午前10時ころから午後4時ころと大きく枠をきめているが、希望により早朝でも深夜でも入浴が出来るようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の準備、後片付け、草取り、洗濯物たたみ、掃除、刺し子、習字など一人ひとりの得意分野で力を発揮してもらい、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や本人の気分、希望に応じて日常的に散歩、買い物、ドライブに出掛けている。道路向かいには公園もあり、毎日散歩している入居者の方もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りの方法の徹底や、近隣の方の理解を得て日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し、避難訓練を地域住民の協力を得て夜間想定や地震も想定して年3～4回行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を毎日チェック表に記録し、栄養バランスやカロリーチェックは定期的に市役所の栄養士や保健師に点検してもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明や陽射しがまぶしかったり、暗かったりしない。換気が適切に行われ臭気や空気のよどみがない。テーブルには季節を感じる花が飾られており居心地よく過ごせる工夫をしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	子供や孫の写真や使い慣れた日用品が持ち込まれ、きれいに整頓されていて、安心して過ごせる居室となっている。		